

ヤマブドウ害虫の発生事例(2)

- アカガネサルハムシとブドウハマキチョッキリ -

1 研究のねらい

前報(岩手県林業技術センター成果速報 No.207)では、薬剤散布をしない病虫害試験地におけるブドウスカシクロバ被害事例を報告しました。同試験地で、ブドウスカシクロバの他にアカガネサルハムシとブドウハマキチョッキリの被害も観察されたので、今回はその被害事例を報告します。

2 研究方法と結果

前報の病虫害試験地において、アカガネサルハムシとブドウハマキチョッキリの被害を観察しました。無作為に3樹選定し、被害の様子と寄生頭数を調査しました。

3 結果

アカガネサルハムシは、幼葉や花穂に寄生し食害していました。食害部はくぼんで見え、激害部位では穴があいていました。5月26日に病虫害試験地で観察されはじめ(図1)、5月30日には25頭寄生していました。薬剤散布した試験地ではほとんど観察されず、1頭が寄生していただけでした。

ブドウハマキチョッキリは幼葉を食害し、葉を巻き込んで葉柄にぶらさがった状態にありました。5月24日から観察されはじめ(図1)、5月27日には8頭寄生していました。薬剤散布した試験地では比較的少なかったが、26日には3頭が寄生していました。

これらの加害種による葉の食害は、ブドウスカシクロバの激害によって、被害程度が目視で判断しにくかったが、健全苗への放虫でいずれの加害種も幼葉への食害が観察されました。

4 成果の活用

これら2加害種の発生時期が明らかになったが、この結果は1年間のものであるので、数年間の継続調査結果を基に、新たな防除体系を構築する必要があります。



アカガネサルハムシ



葉に寄生するブドウハマキチョッキリとその被害葉

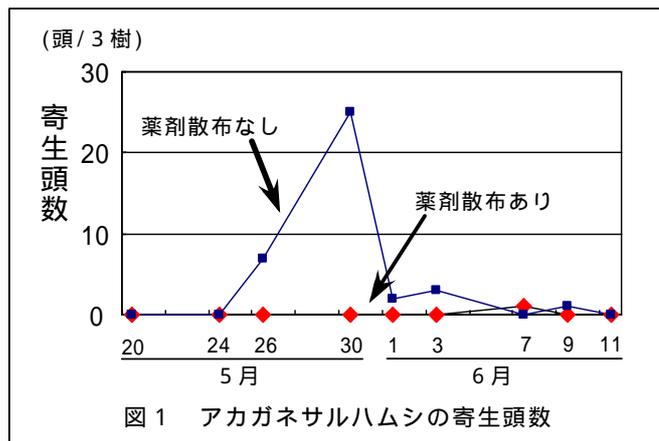


図1 アカガネサルハムシの寄生頭数

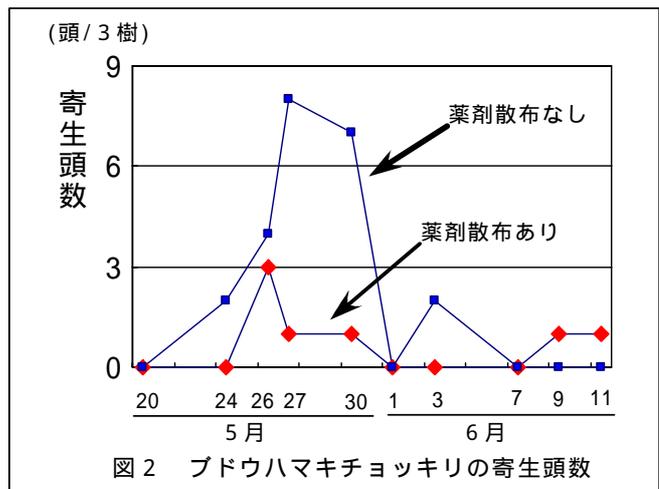


図2 ブドウハマキチョッキリの寄生頭数

(担当 林産利用部 主任専門研究員 泉 憲裕)